

関 浩一（せき ひろいち） 博士（農学）

東京農工大学連合大学卒業（令和4年3月）

東京農工大学大学院連合農学研究科博士課程修了

40年土作り現場で実践と学術研究の両面から土壌改良技術を確立し、これまでに農家さんの悩みであった病虫害を克服・回避してきました。

現在、ショウガ根茎腐病、サツマイモ基腐病、ピーマン黄化えそ病に挑戦中です。

ポイントは、独自開発の酵素を用いて有機物を短期間で発酵させ、代謝によるエネルギーを活用し良質かつ圧倒的に数的優位な土壌微生物コミュニティ（13兆/g）を安定的に再現可能とする技術です。

すでに商品化した「サラブレットみほ」という堆肥が代表的事例となっていますが、各地域にある未利用有機物を活用することで、それぞれの地域でのエコシステムが確立できるものと考えております。

有機農業を志す方、病虫害でお困りの方、地域の未利用有機物にお心当たりのある方にぜひお知らせできればと願っております。

農水省

地の集積と活用の中土壌改良による農産品の品質向上と収量増加に関する

研究開発プラットフォーム プロデューサー

微生物活用によるイノベーション創生研究コンソシアム 開発研究員

産学官連携

サラブレッド堆肥エコシステムプロジェクト プロデューサー

日本ぼたん協会理事

つくば観光コンベンション協会理事

里山再生と食の安全を考える会理事

新規就農者及び農業者育成支援